

非思量 NO.253

しゃくていのいちざんすい

ながれをくむせんおくにん

杓底一残水 汲流千億人

この偈文は、大本山永平寺の入口正門の石柱に刻まれた有名な言葉です。水を汲む杓の底に残るひとかけらの水でさえも、その流れの先には恩恵を受ける千億人の人がいるのであり、大切な水にほかならないという意味です。永平寺73世となる熊澤泰禅禅師によって作られた五言絶句の後半二句とされていますが、もともとは曹洞宗の開祖、道元禅師の「半杓の水恩」という故事がもとになっていると考えられています。その故事とは、道元禅師が谷川で柄杓に汲んだ水を使われた後、杓の底に残った水を無造作に捨てることをせず、きちんと元の谷川に戻されたという話です。

私も三十年程前に永平寺に安居していた時、朝の洗面の際に洗面器半分の水を汲んで、その水を大切に 使って顔を洗う作法を教えられました。

わずかなもの、一枚の紙、一滴の水、一粒の米、こういうものを粗末にすることは自分を粗末にすることと同じという教えです。

私たちの日常生活は、科学の進歩によって便利な世の中になりましたが、先日の台風19号での教訓ばかり、私たちは、本来限りある資源を使うことがあたりまえと思う事への危機感をもって生活していかなければいけないと思います。食物、資源、エネルギー、時間や自分の志、人の心までも大事にしたい。この偈文は、そんなあたりまえと思われがちなことに感謝しながら節度をもって生活することに気づかせてくれるお言葉です。

